

経営比較分析表（平成30年度決算）

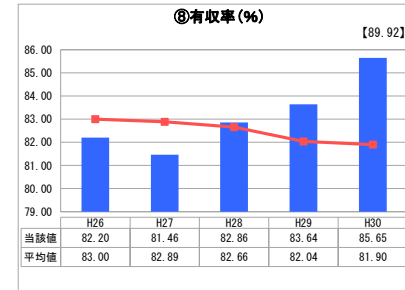
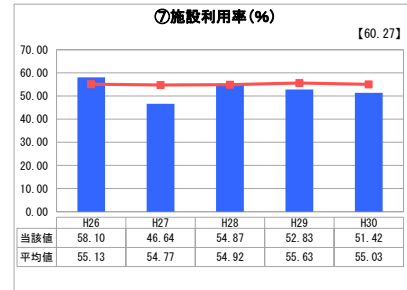
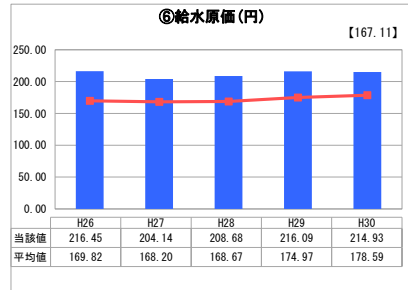
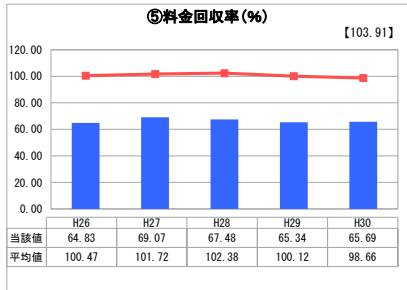
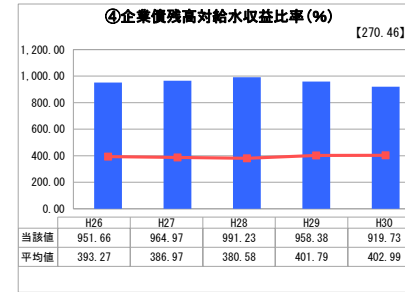
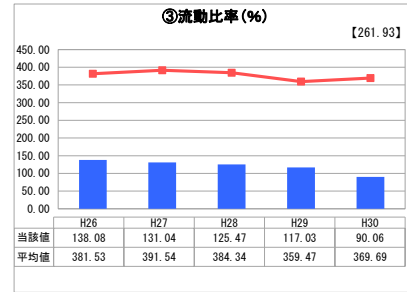
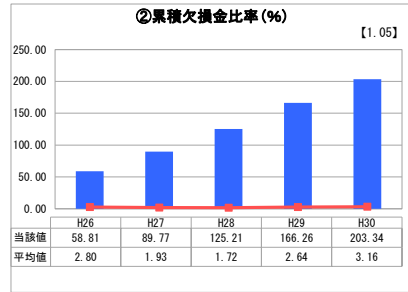
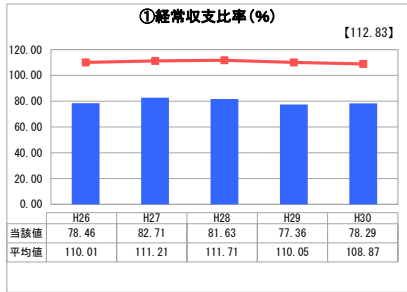
兵庫県 香美町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	55.33	99.70	2,538	

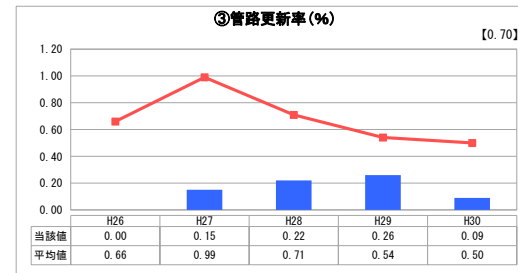
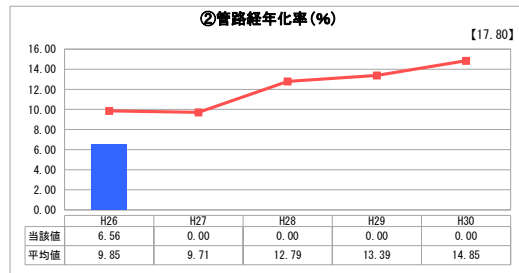
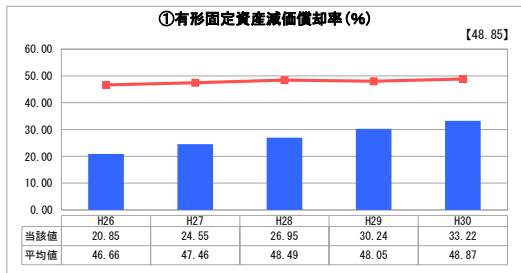
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,845	368.77	48.39
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
17,569	150.94	116.40

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、ほぼ横ばいに推移しているが、100%未満となっているため、今後も、効率的な運営に努め、維持管理経費の削減を図る必要があると考えている。

累積欠損比率は、修繕費の増加等により毎年増加傾向にあり、単年度の純損失の解消策が必要であることから、収支改善に向けて料金改定等の検討を進めることとしている。

流動比率は、90.06%となり、100%未満となったことから短期的な債務に対する支払資金の不足を示す結果となった。ただし、短期的な債務には、次年度の元金償還予定額が含まれており、この額を除くと278.44%となり、支払資金には問題ない状態となるが、企業債残高対給水収益比率が示すとおり企業債への依存度が高い状況のため、今後も資金管理に注意が必要と考えている。

料金回収率は、類似団体と比較しても低い状態となっていることから、料金改定により改善を図る必要があると考えている。

給水原価は、山間地域に多くの浄水場を有していることから類似団体と比較しても高い状態となっており、経常収支比率と同様に、効率的な運営に努め、維持管理経費の削減を図る必要があると考えている。

施設利用率は、人口減少等により配水量は減少傾向にあるものの、季節変動もあり、規模縮小は難しいと考えている。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似団体と比較しても低い状態に推移しているが、上昇傾向にあるため施設の更新計画等により、計画的な更新を進めていく必要があると考えている。

管路経年率は、平成30年度も0%となっているが、今後は順次耐用年数を経過する管路が出てくると予想される。

管路の更新は、全国的に進んでいないように思われるが、平成28年度に策定したアセットマネジメント（中長期的な維持管理計画）の更新を行い、管路についても計画的な施設更新を実施することとしている。

全体総括

旧簡易水道区域のエリアが広く点在しており、地形的にも統合が困難であり、施設も多く管路延長も長くなり、経営改善は大変難しいのが現状である。

安全安心な水を供給するにあたり、維持管理経費の削減についても限界があること、また、人口の減少や節水志向により、有収水量の減少、給水収益の減少が大変大きな課題となっている。

今後、経営比較分析を踏まえ、中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」の検証、見直しを行うことで、料金改定に向けた検討を進めるとともに、課題の早期発見と早期解決を図り、健全経営につなげたいと考えている。